



復刊第130号
題字 吉岡 弥生

巻頭言

副会長 白橋美笑

今年暖冬で過ごし易い日々が続きました。二月にはいつて急に寒さが厳しくなり、インフルエンザが流行し、会員の皆様にはお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

世界の地図が大きく塗り変えられ、そのような激動の時代が到来した感じがします。ソウイェトのゴルバチョフが退陣され、エリツイン大統領に代り、ソウイェトがロシアに変わり、世界の情勢も刻々と変貌してゆくような時世になってきました。

経済大国といわれつつづけている日本では私たちのもつとも関心のある「脳死と臓器移植」の問題が大きくクローズアップされ、まだまだ結論が出るまでには時間がかかりそうです。しかし我々医師にとって見逃が

すわけにはいかない大きな課題となり、医師と患者との信頼関係がますます重要視される問題になってきました。

こんな中で第十六回アルペールピル冬季五輪に出演して力と技と美を十二分に発揮してくれた日本の若い爽やかな選手たちに大きな拍手を贈り、胸のつかえが下りたような気がしました。

さて、日本女医学会も山崎会長は御多忙の中を、北は北海道、南は福岡と支部の総会に、または講演会に招かれ、人と人とのふれあいをされ、日本女医学会の前進に努力され、新入会員も増加し、すばらしい成果をあげておられます。

五月には第三十七回の定時総会も

香川県支部会の先生方が開催してくださいませ。もう皆様のお手元に案内状が届いている事と思います。多くの方のご出席を期待しています。

先に佐藤副会長が全国をいくつかに分け、ブロックごとに集まって交流が出来たらとの事が書かれていたが、是非これは実現させて頂きたいと思えます。埼玉、群馬、茨城の三県の会は年に一回行われ、私も二度招かれましたが、地区の先生方の講演会や音楽会があり、種々の人間関係が生まれ大変楽しい会でした。

最後になりましたが、日本女医学会刊行の「女医史」をどうぞ皆さまお買い求めいただきたいと思えます。読めば読むほど諸先輩の偉大な業績やご苦労が身にしみるような本です。

事務局の方へ連絡してください。お値段は、二八〇〇円です。

もくじ

巻頭言	白橋 美笑 (1)
第5回国際女医学会西太平洋地域会議(予告)	(1)
同(実施要項)	(2)
支部だより	
神奈川支部だより	加藤七五三子 (2)
私の大学	
名古屋市立大学	岡嶋 弥生 (4)
加齢の美	稲生 襄 (4)
追悼・平瀬文子先生	(4)
○第6回ワークショップ開催のお知らせ	(2)
○第37回日本女医学会定時総会のご案内	(3)
○第15回学術講演研修会のお知らせ	(4)
○日本女医史、追補出版のお知らせ	(5)
理事会議事録	(5)
会員動静	(6)
編集後記	(6)

ぜひ多数のご参加を

第5回国際女医学会西太平洋地域会議

来年五月、京都で開催

平成五年五月二十日より二十二日まで次頁の要項にて第五回国際女医学会西太平洋地域会議を開催致すことになりました。このことは、ブリスベン(オーストラリア)で開かれ

ました第四回の同会議で決議されたこととあります。会議は、西太平洋地域各国の会員の学術論文の発表並びにテーマに関する諸問題の論議と情報の交換を主

とし、あわせて参加国女医の相互理解と友好を深めることを目的としております。ぜひご出席賜わりまして学術の研鑽と共に直接の交流をお楽しみいただきたく存じます。会議の詳細につきましては再度ご案内を申し上げますが、今からご予定いただきますようご協力をお願い申し上げます。

平成四年三月吉日

日本女医学会長

山崎 倫子

組織委員会委員長

佐藤 千代子

会員各位

第5回 国際女医会 西太平洋地域会議 開催要項

- ・会議のテーマ
「高齢化社会に於ける医療」
- ・会期 平成五年五月二十日(木)～二十一日(土)まで
- ・会場 京都市
京都市立アバンティホール
新・都ホテル、ホテル京阪
- ・参加国 オーストラリア、韓国、台湾、ニュージーランド、フィリピン、日本。並びに国際女医会役員。
- ・会議内容 特別講演、一般演題、総会。
- ・登録費 五万円(平成四年十二月二十五日迄)以後五万五千円。
- ・日程(概要)
★会議終了後の翌日(二十三日)同会場にて日本女医会定例総会を開催いたします。

	午 前	午 後	夕
20日(木)		受付・登録開始	歓迎パーティ
21日(金)	開会式・特別講演・一般演題	一般演題・総会	日本女医会主催パーティ
22日(土)	特別講演・一般演題	一般演題・総会・閉会式	フェアウェルパーティ (日本女医会総会懇親会を兼ねる)
23日(日)	外国会員観光		
23日(日)	日本女医会総会		

支部だより

神奈川支部だより

神奈川支部
加藤七五三子

特に行事もイベントもない時に神奈川支部について何を書くのかなと支部だよりを読み返してありました。日本女医会総会の特集号がありました。昭和五十九年、第二十九回日本女医会総会が神奈川県で開催され、会場は県民ホール、懇親会宿舎は徒歩で二三分の由緒あるが大変古い建物のホテルニューグランドで、設備にあたっては当時の先生方の奮闘ぶりがこまかに書かれていました。使用出来る建物が限られている時に大変だったと思います。

現在はホテルニューグランドも新装なり、大手のホテルも次々と進出して来まして一変しました。もう十年近い年月が流れたのだなとつくづく感じました。

さて神奈川支部は地域も広く、会員数も百七十人以上で多い方ですが、集まりとなると小じんまりとしています。

年に総会、新年会を含めて、学術講演会を三回くらい開催致します。

者さんの心電図をお持ちになりますので真剣です。

先生の歯切れのよい、時々慢談口調のご講義はなかなか人気があります。

教養の部としては古典研究会が現在会員十三名で第一土曜日午後一時から保土ヶ谷で衣川先生より源氏物語のご講義を受けています。土屋和子先生がお世話役です。

英会話は現在会員十二名で聖ジョゼフ学院のミラー先生を講師に、もう十年以上になります。日総ビル六階の会議室をお借りして毎水曜日午後三時半より「ティーブレイク」を含め五時半までみっちりやりますので、もう英語はペラペラでしょうとひやかされますが、なかなか思うようにはゆきません。

全員上達したいと切に希望しております。お世話役は中浜先生、森田先生です。今年の総会会場は坂出市で、香川県の先生方本当にご苦勞様でございます。よろしくお願い致します。

第6回ワークショップ開催のお知らせ

とき 平成四年六月二十七日(土)
ところ 東京女子医科大学
テーマ 心身症

*詳細は後日お知らせいたします。

学術部

第37回日本女医会定時総会のご案内

いよいよ、総会まであと一ヶ月となりました。先生方にはますますお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

先にご案内申し上げました第三十七回日本女医会定時総会を坂出市(香川県)において左記の日程のように開催いたします。

なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますよう、香川県女医会員一同心よりお待ちしております。

◆総会

開催日 平成4年5月23日(土曜日)13時より
会場 坂出グランドホテル
香川県坂出市西大浜一丁目二番三三三号
電話 〇八七七一四四一〇〇〇
ファクシミリ 四四一〇六〇〇

行事

受付 9時30分～12時00分
評議員会 10時30分～12時00分
総会 13時00分～14時40分
休憩 14時40分～15時10分
チェックイン(グランドホテルでお泊りの方)
記念講演 〇15時10分～16時00分
佐藤和子先生
「健康を支える栄養学」
〇16時10分～17時00分
朝倉 撰先生「演劇空間」
ショッピング・展示会(一階ロビー)
17時30分～20時00分

懇親会

17時30分～20時00分
(オークラホテル丸亀にお泊りの方は懇親会終了後、バスでお送りします)

◆前夜祭

(自由参加) 香川県女医会支部主催
開催日 平成4年5月22日(金曜日)18時より
会場 オークラホテル丸亀
香川県丸亀市富士見町三丁目三番五〇号
電話 〇八七七一三三二二二二
ファクシミリ 二八一八五九五

◆観光旅行

(自由参加)
日 時 平成4年5月24日(日曜日)
コース 坂出グランドホテル(8時30分出発)よりオークラホテル丸亀経由

*Aコース(日帰り)
坂出―丸亀―善通寺(総本山蓮生管長と共に記念撮影と境内案内)―琴平宮(参拝後昼食)―JR坂出駅(14時)經由高松空港(解散・15時)

*Bコース(日帰り)
坂出―丸亀―善通寺(総本山蓮生管長と共に記念撮影と境内案内)―世界のガラス館―与島(昼食後瀬戸大橋遊覧)―JR坂出駅(15時)經由高松空港(解散・16時)

*Cコース(高松宿泊)
坂出―丸亀―善通寺(総本山蓮生管長と共に記念撮影と境内案内)―郷屋敷(讃岐うどん会館)―屋島(観光)―栗林公園(散策)―高松(宿)

◆費用ご案内

総会・懇親会 総会費三千元、懇親会費一万二千元
宿泊費一万元(宿泊+朝食)
(総会のみにご出席の方は、坂出グランドホテルにご宿泊となります)

前夜祭 会費一万元
宿泊費一万元(宿泊+朝食)
(前夜祭にご出席の方はオークラホテル丸亀にご宿泊となります。翌朝の総会ご出席はバスで坂出グランドホテルにお送りします)

観光旅行

Aコース 一万元
Bコース 一万三千元
Cコース 三万一千円
Dコース 三万六千元

◆会場への交通

坂出グランドホテル―JR坂出駅下車、車で五分
オークラホテル丸亀―JR坂出駅下車、送迎バス
用意の予定、高松空港から車で四十分
(空港からホテルまでマイクロボスの用意を検討中)
振込口座 百十四銀行坂出支店
普通預金 〇七七七九七四
香川県女医会 総会準備会

私の大学

〔名古屋市立大学〕

愛知支部 岡嶋弥生

名古屋市立大学医学部の前身は、昭和十八年（一九四三年）に設立された、名古屋市立女子高等医学専門学校です。

現在の日本の教育機関八十余校を、昭和初期までに設立されたグループ、第二次大戦中に設立されたグループ、戦後高度成長期に設立されたグループに分けますと、本校は第二のグループに属し、その中でもっとも古い四校のうちの一つで、すでに開設されていた名古屋市市民病院を基盤とし、全国初の公立女子医専として発足しました。

その後、昭和二十三年、名古屋女子医専に昇格しましたが、これまた本邦における最初の女子大学です。ついで昭和二十五年、名古屋薬科大学を統合して名古屋市立大学医学部と改称し、男子学生にも門戸を開きましたので、その後は一般の大学と同様、男子が圧倒的に多い大学となりました。

卒業生も二千余名を数えますが、現在、女子学生は全体の二〇％前後で少し淋しい気がします。

大学キャンパス、附属病院とも、創立の地に近い名古屋南東部にありますが、二十一世紀に向けて、より飛躍するため、研究、教育、病院の

各施設の改築が次々に計画され、活気に満ちています。

本校を語る時、この人ぬきでは語れないのが青山光子氏で、同氏は昭和十八年創立第一期生として入学、卒業後は助手、講師、助教授を経て、昭和五十一年、教授（衛生学担当）に就任されました。これは同時に本邦最初の女性国公立大学医学部教授の誕生でもありました。平成三年、退官、現在も同窓会長として活躍中ですが、さらに地元や中央の各種委員会の委員として、大学で培われた学識を積極的に社会に還元しておられます。

日本女医会、吉岡弥生賞は、前記青山光子氏の他に二名が受賞しております。一人は米アイオワ大学教授などをつとめられた、マイコプラスマ学者の杉山太規子氏、他の一人は大府府政方市で、病児保育という、働く女性の最も頭の痛い問題に、二十余年献身された保坂智子氏です。保坂氏の、女医ならではの着眼点、行動力は同窓生として誇りに思います。

今一人、旧制医学部の第一期生である佐藤秩子氏は愛知医科大学教授として老年医学に没頭しておられます。新制に移行して後は残念ながらもまだ女性で教授に就任したり、吉岡弥生賞を受けられたりされた方はありません。現在、各地で多数の卒業生が活躍中で、今後に期待している大学です。

第15回学術講演研修会の予告

日時 平成4年11月21日(土) 午後3時
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区)
講演者 西来武治先生
演題 未定

*詳細は後日ご案内いたします。

学術部

加齢の美

神奈川支部 稲生 襄

平成三年九月、私が所属しているコーラスグループ「おたまじやくしの会」が神戸に遠征し（九十名中六十名）、全国シルバークォーラス十八団体のうち、金賞を得たのは全く思いがけないことであった。その時、選者の条件には歌唱力の他に、次のような事項があったらしい。

- (1) 終始笑顔忘れずにこやかに。
- (2) 背すじをのび正しい姿勢で。これは退場の時、背中が曲ってると一目瞭然。
- (3) コスチュームはあまりけばけばしくなく、ほどほどに、はれやかに。ピンクが三組くらいあ

以上は、平常指導して下さる四十歳くらいの先生ご夫妻（奥さまがピアノリスト）の毎回の注意であった。

日本女医会は若返りを計っているのに、このような記事はどうかと思ったが、誰しも年齢を重ねることは仕方のないことである。健康で趣味に生き、ファッションにも最後まで関心をもつよう、いやみのない若々しさでありたいものと願っている。

哀悼・平瀬文子先生

日本女医会理事平瀬文子先生には平成四年三月十六日、東京女子医大病院脳神経センターにて、脳梗塞のため逝去されました。

平瀬文子先生は、大正七年七月二十六日生、昭和十六年東京女子医学

専門学校卒業、東海大学医学部法医学教授として永年ご活躍、このほど定年退職されたばかりでした。心から哀悼の意を表します。

平成四年三月三十日
社団法人日本女医会

理事会議事録

日時 平成4年1月25日(土)
場所 京王プラザホテル 4階宴会場
出席者 山崎、佐藤、白橋、野呂、青井、稲生、白浜、中濱、二村、野本、橋川、橋本、三好、小田、栗原、小出、佐々木、関口、田中、南雲、野沢、松井、森田、吉崎、土井、欠席者 石原、平敷、明石、川田、佐野、平瀬、丸茂、大原、本多

庶務報告 三好常任理事
12月21日・常任理事会開催。
1月9日・石原、二村常任理事と、事務職員で話し合いをする。

1月17日・全会員へ会員名簿を発送。
その他
(1)故土肥幸枝先生のご遺族より香典の礼状あり。
(2)日本ベル協会より、「ベルのコレラ基金」の使途、コレラの現況、及び今後の取り扱いについて報告あり。

連絡事項

(1)女性労働問題研究会より、国際シンポジウム「雇用平等の最前線」開催について通知あり。
日時 平成4年3月14日(土) 午後1時30分～4時30分
会場 昭和女子大本部館 3階 大会議室

会計報告

佐々木理事
十二月分収支別紙どおり報告。
吉岡弥生賞授賞者決定
医学に貢献された部門
稲垣千代子(大阪7支部)
高柳泰世(愛知支部)
社会に貢献された部門
高柳泰世(愛知支部)
岩崎和佳子(大阪10支部)
加藤竺子(福岡支部)

本多三枝子先生より監事の辞任届提出あり、受理される。定款施行規則第25条により、第37回定時総会において選出する。「告示」を早急に選挙人へ通知することに決定。但し定款第18条により、後任者が就任するまでは、本多監事はその職務を行なう。

各部報告
〈広報部〉 小出理事
・1月末、日本女医会誌一二九号を発送の予定。
〈事業部〉 白浜常任理事
・風土社より社会保険新報出版本月刊誌「いきいき」に、五月からも引き続き掲載してほしいとの原稿執筆依頼があった。協力すること決定。
〈学術部〉 橋本常任理事
・12月5日 学術部会を開催。
・次年度のワークショップ、学術講演研修会について、検討中。
・学術研究助成応募者は十一名、その内二名は応募資格なし。従って候補者は九名。

一、第5回国際女医会西太平洋地域会議について

組織委員長 佐藤千代子副会長
組織委員及び役務分担表(案)提出、一部変更の上承認される。
別紙の通り
会期 平成5年(一九九三)5月20日～22日
会場 京都
京都市立アバンティホテル、新・都ホテル並びにホテル京阪
登録料 平成4年12月25日迄に申込み
会員五〇、〇〇〇円
外国会員三〇〇ドル
上記以降の申込み
会員五五、〇〇〇円
外国会員三五〇ドル
メインテーマ「高齢化社会における医療」
サブテーマ①疾病に関すること
②後遺症に関すること
③ターミナルケア
④行政の問題
募金趣意書、案内状、予算案は二月常任理事会までに作成
英語堪能の職員を会議終了までアルバイトとして採用する。
演題申込は学術部へ
二、その他
(1)国際女医会費について
昨年と同様一、八二〇名分送金。

お知らせ

日本女医史 追補出版!!

先輩、福田幹編集の日本女医史に近年の年表を追補いたしました。

本文の前半は女医公許以前の傑出した女性が医学を志し、困難を堂々とのりこえ、目的に邁進するお一人お一人の生活が、リアルにかかれております。後半には公許女医一号の荻野吟子および吉岡弥生をはじめ大勢の先進が「日本の女医皆力を結集すべし」との声をあげ、今日をつくり上げる努力が記録されていますが、ささげ感させられます。

年表は平成三年前半までを追補し、目ざましいまでの女医の活躍を年次的に記載いたしました。どうぞ女医の今昔を、日本唯一の女医の歴史をぜひ一読のほどをおすすめいたします。

日本女医史(追補)

定価 二、八〇〇円(税込)
平成三年四月 発行
編集者 日本女医史編集委員会
発行者 日本女医会
A5判・三二〇ページ

日本女医史編集委員会

ご希望の方は、日本女医会(振替口座番号 東京二六九九六八)へ代金二、八〇〇円をお送りください。

(2) 役員役務分担変更について
 荒木理事辞任に伴い、南雲理事会計部から庶務部へ

(3) 第37回定時総会会費及び懇親会費について
 総会費 三、〇〇〇円
 懇親会費 一、〇〇〇円

(4) 新採用の事務職員関美恵子の紹介あり。

(5) 1月27日事務所の床をはりかえ終了(カーペット)

(6) 事務所で今後購入する備品について検討
 事務用机、イス、タイプライター等

(7) コンピューターの移動について
 机及びイスの納品後、コンピュータを東京女子医大より事務所へ移動する。移動に伴い調整が必要であり、担当者への謝礼は会計へ一任する。

(8) 1月23日東京都支部連合会の役員二名と、石原、二村常任理事とで、書類の整理、事務員のバイト料等の件について話し合いをする。

(9) 四月に事務職員の給料の見直しをする。

依頼事項
 (1) 次回常任理事会に各部より次年度事業計画案及び予算案の提出をされたい。

副会長(庶務担当) 佐藤 以上
 庶務部 三好、南雲、吉崎

会員動静

入会会員(敬称略)

- 宮城支部 山口慶子
- 福島支部 富田真理子
- 栃木支部 旭 百合子 塚田篤子
- 文京支部 佐々木映子
- 目黒支部 藤田靖子
- 東女医学内支部 神尾孝子
- 神奈川支部 堀井さつき
- 富山支部 岩脇理佳 吉田頼子
- 福井支部 安嶋美紀
- 兵庫支部 松本富美子
- 徳島支部 宇野由佳
- 福岡支部 藤永三千代
- 宮崎支部 光瀬キミ
- 鹿児島支部 瀧井雅子
- 新卒入会会員(敬称略)
- 山形支部 桜川信子
- 宮城支部 鶴沼奈美 風間祥子
- 埼玉支部 多賀かすみ 栗原真紀子
- 栃木支部 中村美貴
- 茨城支部 宮田聡子
- 北支部 河島涉子
- 新宿支部 山崎 香
- 杉並支部 石井のぞみ
- 豊島支部 林 佳代
- 中野支部 呉 朋子
- 文京支部 大久保由美子
- 目黒支部 井戸田 望
- 東女医学内支部 菊池恭子
- 竹節麗子 難波富佐子
- 松下 史
- 神奈川支部 栗原八千代

集記
 編後

- 今野彰子
- 愛知支部 小池陽子 近藤千華
- 志水麻美子
- 大阪7支部 安井祥子
- 大阪8支部 田村周子
- 大阪9支部 土生川千珠
- 西川瑞穂
- 京都支部 山崎美和
- 岡山支部 小畑百合子
- 平賀由美子 古川富紀子

- 徳島支部 田口恵美子
- 三木佐知子
- 福岡支部 高雄真樹子 吉原 園
- 塚本ゆき子 吉村昭子
- 退会会員(敬称略)
- 北海道支部 渡辺景子
- 千葉支部 関 央子
- 大田支部 馬嶋和代
- 杉並支部 高橋三代子
- 千代田支部 荒木律子

- 豊島支部 中野栄子
- 神奈川支部 近藤幸枝
- 橋本裕美子
- 静岡支部 白松敦子
- 物故者(敬称略)
- 葛飾支部 野村淑子
- 中野支部 柳田 卓
- 都下東支部 高橋きくの
- 島根支部 土肥幸枝

今平成四年の春は、日本中天候が大層イレギュラーで、花粉情報が出たと思うと、北日本では雪、日本全体では雨天多く、会員の皆様も変則的な患者の多発にお悩みのことと存じます。まして会員ご本人の健康にも、悪い気候にもかかわらず全国の皆様が悪念に天職と闘っていらつしやるご努力に感じいております。

前途を明るくする途だと感じます。今年三月八日からのグワテマラへは、会長・副会長をはじめ理事の三分の一くらいが出席しましたので、その間日本でのいろいろな任務は残された理事方が完全に処理して頂いてありがたいことでした。現在理事会は誠に雰囲気もよく全員自由な発言及び提案と協力一致の姿勢で会務をいたしております。仲好くさわやかな理事会が毎回会務を和やかに前進的に施行しております。

ちよつとも会の発展のためにいいことがあると考えられると積極的に実行してゆく態度で進めたい。実行出来るので事務員の方々も熱心に仕事にはげんでいて下さっています。そして会員相互の連絡を親密にし交流を深める日本の全国的組織日本女医学会をより盛大にするように編集部一同親しみ易い会誌を作成するために努力しております。皆様も気軽にご執筆していただいで地方の様子や近況などご寄稿頂けば会誌に花をそえることが出来ると存じます。よろしくおねがい申し上げます。

世界情況が混沌として、大国ソビエトの崩壊、民族独立として小独立国の乱立等で第一次世界大戦前の独立国家がほとんど復活しております。幸せなことに一國一民族一言語の日本国は「平和であるなあ」と思わざるを得ません。

狂った金権主義のバブルが崩壊したとはいえ、地道に仕事をしている我々のような聖職はより真摯に患者のことを思い、また研究を地道にコツコツと努力をすることこそが我々

平成4年4月20日 印刷
 平成4年4月25日 発行
 編集人 稲 生 襄
 発行人 日 本 女 医 会
 発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-7 青山宮野ビル
 社団法人 日本女医学会
 ☎三九九八-〇五七一
 東京都文京区水道1-5-16
 株式会社 金剛出版